皇海山・冬合宿　2015/12/31-2016/1/2

★銀山平～六林班峠～鋸岳～皇海山～国境平～松木渓谷★

メンバー：落合（ＣＬ・記録），平川，飯野

今年の冬合宿は地元の山でありながら今まで縁のなかった、両毛国境の皇海山とした。

今シーズンは近年稀にみるエルニーニョの影響で暖冬傾向、どの山域を取っても積雪量が少ない。

皇海山は何処から入っても長いアプローチを強いられるのでピストンでは芸がなく、銀山平から松木渓谷に縦走する計画とした。日程は 2 泊 3 日（予備日を 1 日設けた）

◆2015/12/31　晴れのち小雪

銅親水公園 6：30（車デポ）⇒　銀山平 7：30　庚申山荘 10：00　六林班峠・幕営 14：30

国民宿舎に登山届を提出して出発、黒々しい山肌にワカン・スコップ・重装備がアンマッチ。

年越し山行だけに食事と酒だけはゴージャスに行こうぜと荷物は 30 キロを超えたと思われる。。

一の鳥居までの林道はのんびり歩いて 1 時間程度、庚申山荘からみる庚申山～鋸山の稜線も慰め程度に雪が付いている程度である。

今回の山行でいちばん問題となったのは水の確保で、通常の冬山では雪で水作りが出来るが今回は歩いていても全くといっていい程積雪がないので幕営予定地の六林班峠、以降 2 日目の幕営地でも雪を確保出来ない可能性が高い。。

場合によっては甲子園球児が土を集めるかのごとく雪集めに徹するか、山頂でサンタクロースごっこ（雪を担いで幕営地に下山）になるかもよなんて冗談を交わしながら歩いていたが、遠くに見える山肌をみる限り満更ではない雰囲気だ。。

大量の酒を担いでおきながら水はありませんなんてオチではどうしようもないので、途中沢でたくさんの水を汲んで一安心。

庚申山荘から六林班峠までは山腹をトラバースするように道が付いているため長くタルい。

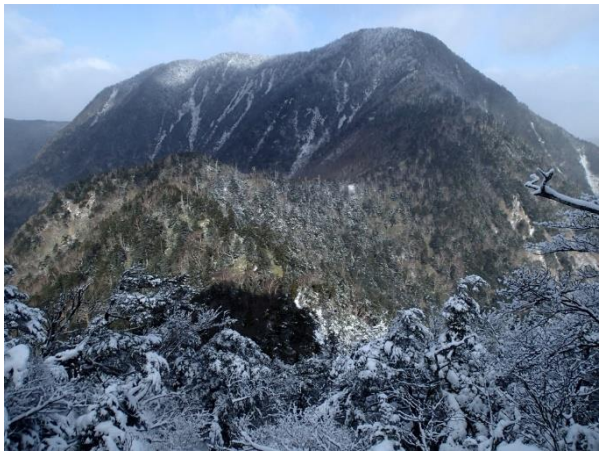
南斜面で日当たり抜群なので雪が付いても暖かいとすぐに溶けてしまうと思われるが、後半は日陰が多く雪がしっかり積もっていると登山道がどこにあるか特定しづらく急斜面のトラバースは積雪量や凍結具合を考えると冬はあまり一般的とは言い難い。

峠直下でタオルに汗をにじませヤブを掻き分ける（左）
初日は六林班峠で幕営、予想通り積雪が無く笹ヤブに包まれた静かな森がまた一興？（右）

大晦日の夜は年越し蕎麦、ビールで乾杯し日本酒でほろ酔い、ミカン酒で悪酔いし紅白を聴きながら一瞬で寝落ちし爆睡。

◆2016/1/1　晴れ時々曇り・小雪（強風）
六林班峠 8：00　鋸岳 9：35　皇海山 12：30　国境平 14：45　ニゴリ沢出合・幕営 17：00

明け方低気圧が通過し、木々を揺らす強風で目が覚める。夜中はテントのまわりを小鹿がハシャギまわっていて迷惑極まりない。5：30 に起きるも二度寝、テントの中ではかなりの強風が吹き荒れていたと思ったが、外に出てみたら大したことなく視界も良好。稜線上は 5～15 センチ程の新雪が積もっていて少しだけ冬山っぽい雰囲気となる。朝の気温はマイナス 13℃、風速は 15m 程度だったと思うが、尾根上は木々が生い茂っているので他の山域では耐風姿勢を取るような状況でも足尾山塊では比較的行動しやすいと思われる。幕営適地も場所を選べば思いの他快適な適地がいくつかあった。



鋸岳直下、袈裟丸山に続く尾根も長い（左上）、鋸岳から皇海山を目指す。（右上）

鋸岳山頂直下の下降は急斜面で岩場のフィックスが埋まっていると少々ヤラシいが難なく通過。
庚申山から鋸岳のお山巡りは無雪期は皇海山に登る過程にしか過ぎないが、冬期のお山巡りは栃木に残された数少ない冬の課題といったところか。
雪が付くと鋸の乱杭歯も見栄えがするが中々悪そうで、冬の皇海山に登るストーリー性が増す。

標高 1,900m を越えるとやっとまともな積雪になり、皇海山山頂直下でソロの年配者と出会う。
今回は誰とも遭遇しないと思っていただけに、向こうもこんな渋い山域に若造がパーティーで入っていることに物珍しさを感じていてその辺はお互い様であるが、簡単に情報交換をして後にする。
皇海山北斜面は 40～50 センチ程の積雪で国境平へは一気に 500m 下降するが、途中明確な尾根とは言い難いので進路が定めにくい。
途中、石楠花と枝ヤブに捕まり下降に苦労する部分があったが、国境平からみる皇海山はそれはまた立派で逆回りコース、またはピストンを取らなくて良かったと一同納得する。
国境平も幕営地としては最適だが、甲子園ごっこになってしまうのでヘッデン覚悟でニゴリ沢出合まで下降。

厳冬の皇海山～日光白根縦走は当会の課題としていつかやりたいと思っているが、実際途中まで歩いてみると冬は何日掛かるんだろうねぇ、、と漠然とした感じであった。
実際、峠付近はこの時期でもヤブが出ているので厳冬なら 2 月にやってこその課題かもしれない。
いずれにしても冬は色んな意味で難題だ。

皇海山山頂直下、南斜面は雪が少なく歩きやすい（左）
国境平から皇海山をバックにまだまだ元気な三人（右）

もみじ尾根の分岐も尾根が非常に広いので視界不良だと少々苦労しそうな感じだが、もみじ尾根は最後転げ落ちそうな程急坂で冬は落ち葉に隠れ土が凍っていて下降は結構際どい部分があり、ピッケルのピックを土壁に刺しながら重装備で振られないよう慎重に下降した。

ニゴリ沢出合に着いたのがちょうど 17 時で何とかヘッデン行動は免れた、ニゴリ沢出合は昔小屋があった場所なので快適な幕営地だが、冬山での幕営地というより沢で焚火でもしたい快適な場所だ。

もう少し早く着いていれば冬合宿で焚火パーティーも可能であったが、早々に日が暮れてしまったので大人しくテント内で食事を済ます。

夕食はシーフード・ミックス釜飯、もはや何味なのかよく分からないが 1,000 ㌔カロリー・オーバーで腹も満たされ今日もよく食べて飲んで一同爆睡。

山でのメンタリティは、担いで歩けて飲んで食べてよく寝れるヤツが勝者だという事を改めて再確認。。

夜は沢の音を聞きながら満点の星空で冬山と言うより沢登りみたいな雰囲気だったが、今度来るときはここで岩魚パーティーでもしたい。

◆2016/1/2　曇りのち晴れ

ニゴリ沢出合 8：20　ウメコバ沢出合 10：50　銅親水公園 13：00　⇒　銀山平（車回収）

ニゴリ沢出合の幕営地（左）、小足沢、三沢まで来ると松木渓谷らしい雰囲気となる（右）

今日は下山するのみなのでゆっくり起床、また二度寝してしまい 1 時間寝坊する。

朝から厚切りつるしベーコンを焼き盛大な朝飯、今回は朝夕通して山めし礼賛的な男飯が豊富に登場。山のレシピなら女子にも負けない自信がある？

松木川は分かっていたものの源頭からの水平距離が長い、冬靴で凍結気味の河原ゴーロ歩きと渡渉を連続するとさすがに疲れるが、ウメコバ沢まで来れば下山は近い。
帰りは対岸からアイスクライミングの偵察をしたが、どの沢も今年は散々なコンディションでまだまだ全然登れる状況では無かった。暖冬の冬山で満足出来る山行は少ないだけに困ったものだ。

足尾山塊は上越国境や日本海側の山などに比べれば晴天率も高く、雪もそれほど深くないので比較的取りつきやすい山域であるはずだが、アプローチや距離の長さ、入山者の少なさゆえ他人の踏み跡なども当てに出来ないので、自分たちだけのトレースを刻める数少ない貴重な山域だ。
今年の足尾山塊は例年になく雪が少なかったと思うが、冬山の内容は決して積雪量に比例するものではなく、雪山以外の要素も多分にありいぶし銀の内容だった。
会のメンバーとの深い交流・関わりは合宿がいちばんと断言出来る、お互いを知ることで新しい山行やアイデアが生まれるし、どんな内容であれ目的に向かう過程や形は重要だと再確認した次第です。

◆平川

会社が正月休みに入り私の頭のなかは、皇海と松木沢の事でいっぱいになった。雪は、あるのか？酒は、何リッター持ってくか？夕飯は、何にするか？地形図を読んでは胸をはせていた。
酒と缶詰とつまみをいつもの 110 リットルのザックに積めて、訳もわからない量の荷物になっていた。
実際に山に入ってみたら、雪が全然なく暖かい。水作りで涙の甲子園ごっこをするように思えたが、沢の水を汲みなんとかしのげたが、ザックの重心の位置がズレて歩きにくかった。
今回の山行は、泥臭く、男臭くとてもカッコ良い登山になったと思った。いっぱい食べて、いっぱい寝るやつが強い山屋だと私は思う。

◆飯野

今回の冬合宿は記録的な暖冬が影響して、普段の冬山ではないような山行となった。
ただそれが幸い?してか、何でもアリ（但し雪はない）となって、良い経験を積むことができた。
天気にも恵まれ無事松木に抜けることが出来たが、積雪量が例年通りであったならば２泊３日で抜けるのはかなり厳しかったと思われる。
自分にとって足尾はまだ触れ始めたばかりの山塊であるが、今回は改めて足尾の懐の深さを感じる山行となった。
そしてやっぱり皇海山は遠く、酒は重かった(笑)